

<報道発表資料>

2021年6月25日

2021年富士山頂夏期観測は万全のコロナ対策でスタートします

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会（以下「NPO」という）は、気象庁から借り受けた旧富士山測候所を使い、7月1日から2か月間、2年ぶりに研究活動を再開します。マイクロプラスチックの研究、火山噴火予知を視野に入れた微量気体や地磁気の観測、富士山頂 CO₂ の連続測定、豪雨災害につながる雲の生成の研究など 20 数題のほか、活用計画にも数課題が計画されていますが、実施についてはまだ流動的なところもあります。課題数は例年の約半分となりますが、徹底したコロナ対策を講じて研究をサポートします。



旧富士山測候所の様子（2021年6月18日、山頂班撮影）

NPO は、2007年の夏以来、気象庁から借り受けた旧富士山測候所を使い、夏季2か月間の研究活動を継続して実施してきましたが、昨年はコロナ禍に伴い富士登山が全面禁止となり、NPOとしては初めて山頂での夏期観測の中止を余儀なくされました。

また、夏期観測の中止に伴い主要な収入源の喪失という窮地に陥り、NPOの存続自体が危ぶまれる状況となりましたが、クラウドファンディングを立ち上げ皆様にご支援をお願い、当初の目標額の2倍を超えるご支援を賜り、おかげさまでNPOとしての活動を継続することができました。

夏期観測の研究計画には大気科学関係を中心に26課題、活用計画には8課題が公募により採択されましたが、被検者を必要とする高所医学系の研究は自主的に参加を取り下げたこともあり、研究観測の規模は全体として例年の半分程度となりました。

今話題のマイクロプラスチックの研究、火山噴火予知を視野に入れた微量気体の観測、通年観測を行い東アジアで唯一中国のCOVID-19の影響を検出した富士山頂 CO₂ の連続測定、豪雨災害につながる雲の生成関連の研究、雷の観測研究などが継続されます。さらに、昨年の山頂観測ができなかった代わりに南東山麓の太郎坊でスタートした地磁気の観測は、今年は山頂で調査を開始し、火山噴火予知研究は多角的に行われることとなります。

新型コロナウイルス感染症対策としては、安全最優先の観点から新規グループの参加を認めなかったほか、参加予定者は事前に健康チェックシートの提出を義務づけ、登山や山頂滞在人員も制限し、万一感染が疑われる場合には速やかに山頂からブルドーザーで下山するなどの緊急時対応マニュアルも整備し、山頂、御殿場事務所、東京事務所が一体となってオペレーションにあたり研究活動をサポートします。

新型コロナウイルス感染症に対する不安は未だ多く、依然として様々な影響が出ております。しかし、これからも長期にわたって山頂での観測を継続していくためには、冬季無人観測用バッテリー類の充電、老朽化に拍車のかかる庁舎や電源の保守は中断することはできません。マスクの皆様におかれましては、NPOの現状をご理解いただき、さらなるご支持・ご支援をいただきたく、是非とも広くご周知のほどをお願い申し上げます。

添付 2021年度夏季観測研究テーマ参照